

5年生市民科「赤ちゃんふれあい事業」の様子



ここ最近、書きたい内容はあるのに「台場の灯」を書く時間が取れず、結果として発行が遅くなるという悪い循環が続いています。何とかペースを戻したいと思っています(笑)。今号で紹介をするのは、9月11日(木)の、5年生の「赤ちゃんふれあい事業」の様子についてです。

この取り組みは児童センターが中心となって、参加してくれる赤ちゃん(保護者さん)を募集し、5年生と赤ちゃんの触れ合いをサポートしてくださるボランティアを募り、実現してくださっているという、結構手間のかかる事業なのです。

当日の講師として助産師さんにも来ていただき、赤ちゃんに触れあう前に、お腹の中の赤ちゃんの様子、赤ちゃんの発育・発達について、そして、妊婦体験ジャケットの着用、何よりも赤ちゃんとのかかわり方のコツなど学習しました。特に、「赤ちゃんには大事に丁寧に接する」「まず、スマイル」「困った時には、例えば『手伝ってください』などと言おう」など、具体的な留意点を確認しました。

その後、赤ちゃんとお母さんに入場していただき、グループに分かれて「ふれあい」の始まりです。もちろん、事前学習もしっかり参加していた5年生ですが、実際のふれあいでは、本当に楽しそうでした。ご家庭に、小さな弟妹がいる5年生などは、率先して上手にかかわる様子を披露してくれていました。日頃から、4・4交流(4年生と4歳児)、5・5交流(5年生と5歳児)、たてわり班活動などの異年齢交流を経験している子どもたちだからでしょうか、どの児童も、積極的に赤ちゃんに関わる姿が印象的でした。

会の終わりの児童の感想で、「赤ちゃんのハイハイが、思ったよりも速くて、ついていくのが大変でした」「お父さんやお母さんの大変さの一端を知ることができました」と、笑顔で語ってくれたのが印象的でした。また、参加してくださった赤ちゃんのお母さんからも、「5年生がやさしく接してくれて、子どもも喜んでいました。よい機会だと思いました」などと、うれしい言葉をいただきました。

今夏の授業を企画運営してくださった、東品川児童センター・北品川児童センターの皆様、講師の助産師の先生、ファシリテーターとしてグループでのふれあいをサポートしてくださったボランティアの皆様、本当にありがとうございました。